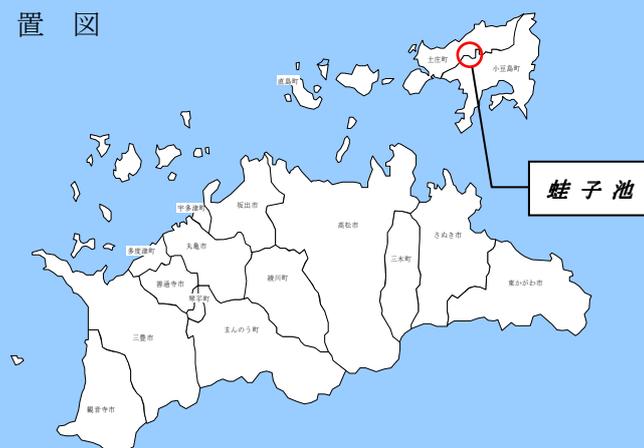


蛙子池 (かえるごいけ)

位置図



諸元

貯水量	634 千m ³
満水面積	8.5 ha
集水面積	243.7 ha
受益面積	123.6 ha
堤高	15.3 m
堤長	420.0 m

小豆島は雨が非常に少ない上、地形が急峻なため、降った雨が一時に海まで流れ出てしまうことから、川には常に水がなく、島民は昔から旱魃^{かんぱつ}による苦しみに悩まされ続けていました。

当時の肥土山村の庄屋であった太田伊左衛門典徳は、この窮状を救うためには伝法川を締め切り大池を築くほかないと考え、付近の谷々を歩き回った末ようやく銚子溪の奥に格好の場所を見つけ出しました。(この場所は、当時自然の水溜りがあり、常に数千匹の蛙が棲みついていたことから「蛙子」と呼ばれている場所でした。)

伊左衛門は、天和3年(1683年)倉敷代官所のため池築造の許可と援助を嘆願し、翌年には工事着手することができましたが、嘆願時の約束により工事はすべて地元の百姓の手で行わなければならない、山奥での工事であることから地元の負担は非常に大きく、工事は難航を極めました。

そのため、伊左衛門は、自分の山林から田畑まですべての家財を売り払い、さらには当時庄屋の特権であった酒屋株までも人手に渡して資金の調達にあてるという有様でありました。

こうした苦心の末、貞享3年(1686年)春、池は完成し6月15日には待望の池水が肥土山の二宮八幡まで達し、歓喜した百姓達は神社の境内に仮小屋を建てて芝居を催し池の完成を祝いました。これが現在まで続く肥土山農村歌舞伎の始まりであると言われています。

その後、蛙子池は度重なる大きな改修改築工事を経て当時の8倍程の大きさのため池となっており、現在も島の発展を支える重要な水源となっています。



蛙子池



池中央に建つ弁財天を祀った石塔